参考２

第１回コウノトリ但馬空港のあり方懇話会　議事概要

１　日　時：令和２年２月６日（木）15:00～17:00
２　会　場：但馬空港ターミナルビル　２階中会議室
３　出席構成員（敬称略、五十音順）
伊藤　雄介（日本航空㈱ 国内路線事業本部　国内路線事業部 部長（路線計画担当））
上村　敏之（関西学院大学学長補佐 経済学部 教授）
岡本　慎二（豊岡商工会議所 会頭）
坂本　高洋（豊岡青年会議所　理事長）
竹林　幹雄（神戸大学大学院　海事科学研究科　教授）
森田　敏幸（豊岡市　副市長）　※中貝　宗治（豊岡市長）代理
中村　曉　（但馬地域商工会振興協議会 会長）
西村　肇　（但馬観光協議会　会長）
高階　正夫（但馬区長会連合会　委員）　※（但馬区長会連合会　会長）代理
藤井　洋一（㈱神戸新聞社　論説委員）
傍士　清志（一般財団法人港湾空港総合技術センター　業務執行理事）
佐藤　博之（京丹後市　副市長）　※三崎　政直（京丹後市長）代理
４　議事
(1) 現地視察
懇話会に先立ち、但馬空港の現地視察を行った。
(2) 開催要綱・懇話会開催スケジュール
県土整備部県土企画局空港政策課から説明を行った。
(3) 座長の選任
構成員の互選により、座長には関西学院大学学長補佐・経済学部教授の上村敏之構成員が選任された。
(4) 座長代理の指名
上村敏之座長から神戸大学大学院教授の竹林幹雄構成員が座長代理に指名された。
(5) 懇話会の公開・非公開の別　公開
(6) 資料説明
県土整備部県土企画局空港政策課から、以下について説明を行った。
①但馬空港の概要
②空港・航空分野の環境変化
③但馬・京丹後地域の環境変化
④但馬空港の課題
（羽田発着枠政策コンテスト応募に向けた協議調整から見えた課題）
⑤近隣空港との比較
(7) 意見交換
下記を参照。

［テーマ①］

〇但馬・京丹後地域が描く将来像の実現に向け、但馬空港をどのように利用したいか。どうあってほしいか。

［意見］

①但馬、京丹後地域の活性化のために、羽田を始め国内の他都市や世界と直接つながる新たな路線展開を望む。

・地元は首都圏直行便を飛ばしたいという強い思いでいる。小型機で困難であれば、ジェット化すべき。

・但馬の観光は関西への依存度が高い。関西圏の人口が減少していることからも関東圏とつながる意味がある。

・豊岡市は小さな世界都市を目指しており、世界との窓口である羽田への就航は目指したい。

・例えば名古屋、高知、福岡などへ週２日程度、また海外へは韓国だけでも路線ができればずいぶん地域が活性化するのではないか。

・ビジネス面ではかばん業界を中心に海外とのつながり、関空へのアクセスを望んでいる。理想は但馬から直接海外と繋がることである。

・神戸空港を国際化し、神戸−但馬を繋ぎ但馬から世界へつながるべきだ。但馬だけの問題に留めずオール兵庫の大きな視点で考えていくべきだ。

②就航率の改善、就航便数の増加等による利用者の利便性向上や災害時の拠点としての機能強化を望む。

・定時の離着陸で目的地にも時間どおりに着けば安心感がある。

・便数の少なさ、就航率の悪さが改善されればビジネスに活かせる。

・災害時の救援拠点としての整備を望む。

・機能強化の検討にあたっては、費用対効果を見極め、合理的な投資であるかの検討をお願いしたい。

・京丹後市の発展にとって但馬空港は不可欠。今後もインバウンドの獲得に取り組みたい。

［テーマ②］

〇空港・航空業界の動向を踏まえ、将来の但馬空港はどうあるべきか。 **〇地域が望む但馬空港の姿を実現するために検討すべき事項は何か。** **〇今後の検討の参考にすべき空港はどこか。**

［意見］

①但馬と京丹後地域が連携し、遠くから行ってみたいと思わせる仕掛けで人を呼び込むよう努めるべきである。地域に人を呼びこむことが航空需要増に繋がる。

・城崎温泉を利用する外国人が 4.5 万人いるので、いかに空港利用に繋げるかを考えていくとよい。

・人口減少が進む中、但馬と京丹後地域は連携し、但馬・丹後・若狭の玄関口としてより多くの人を呼び込むよう努めるべきである。航空利用者は地域にお客を呼べば自然と増える。

・航空事業者は、人口減少の中では外国人利用者の取り込みや、観光交流人口を増やさないと路線を維持できない。＋α行く理由が必要である。その一つとなるのが専門職大学や演劇の街であり、遠くから行ってみたいと思わせる仕掛けで需要の増に繋げることが必要である。

②東京との繋がりにこだわらず、世界と繋がるべきである。国際線に対するフィーダー機能を持たせることで、利用者増を図ることも考えられる。

・関西空港、成田空港と結んで外国人を呼び込み、首都圏とも繋がる方法もある。

③空港機能強化の検討にあたっては、コストに見合うメリットや、空港に求める機能は何かを慎重に検討する必要がある。

・滑走路延長などの機能強化は非常に大きなプロジェクト。コストに見合うメリット等を議論する必要がある。

・小規模空港でも運営方法によって希少性を高めることができ、魅力的な空港になる。大きな空港ではできない小さい空港ゆえの利用方法もある。

・南海トラフ地震等の自然災害に対するバックアップ機能を確保するという観点から機能強化策を検討するべきである。

・自動車の自動運転、空飛ぶ自動車、リニア新幹線等、今後 10 年程で人の輸送に係わる技術革新が大きく進展する。これらの動きを視野に入れ、空港に求める機能とは何か見直す時期にある。

④その他

・コウノトリという素晴らしい愛称を体現化し、環境に優しく自然と共生する空港運営を目指すべきである。

・福島空港では、震災ツーリズムやクラフト教室等の取り組みを空港で行い、また魅力的な空港レストランも充実し、賑わいが創出されている。地域と一体となった空港運営方法について、福島空港の事例を参考にすると良い。

・リニアが供用すれば航空と鉄道の分担率は変わる。羽田への乗り入れはノーチャンスではない。

・但馬空港と地域とのアクセスについては、豊岡演劇祭で開発している先端的なモビリティの活用と結びつけることが肝要である。